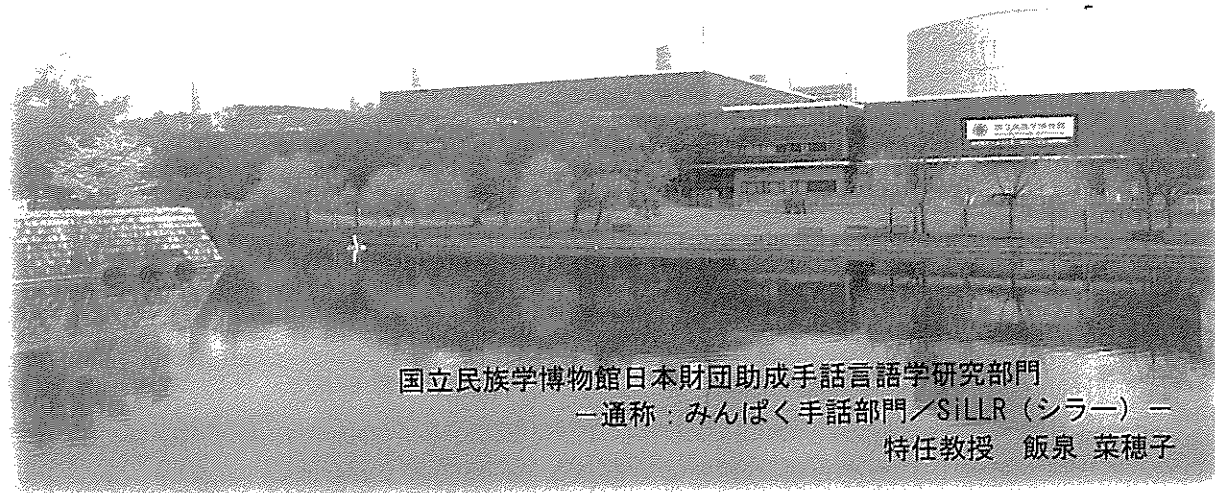


みんなくでの学術手話通訳養成事業の取り組み⑤



国立民族学博物館日本財団助成手話言語学研究部門
 一通称：みんなく手話部門/SiLLR (シラー) —
 特任教授 飯泉 菜穂子

様々な関連講座の提供

SiLLR 学術手話通訳養成事業では様々な付帯事業（関連講座）を展開しており、私はすべての講座コーディネーター、多くの講座の講師を担当しています。以下、これまでに実施し

た関連講座についてご紹介します。なお、講師・場所ともにみんなく内で対応できた『楽しい言語学を学ぶ会（たのげん）』を除き、関連講座はすべて参加費をいただいています。

『みんなくで手話言語学を学ぼう！』（2016・2017）

『みんなくで手話言語学を学ぼう！』は、手話言語学とその周辺分野についての専門家による連続講義を提供するものです。この2年間は、手話言語学については原大介先生（豊田工業大学）が6コマ（1コマ90分）、手話言語学周辺領域は武居渡先生（金沢大学）が4コマ（同前）担当してくださいました。お二人の講義に加え、私が、手話通訳者がなぜ手話言語学を学ぶ必要があるのかという講義（1コマ）と実技ワークショップ（1コマ）を担当しています。

主たるターゲットは現役手話通訳および手話通訳を目指す方々。どちらも、ろう者・聴者を問いません。ろう通訳とろう通訳を目指す方々も対象となります。講師は音声日本語で講義を行い日本語・日本手話通訳を付与しますが、質疑応答は原則として日本手話のみで行いますので、参加者は日本手話によるコミュニケーションができることが前提となります。

2018年度も初夏に開講予定です。

『みんなくで手話通訳士を目指そう！』（2017）

今年度初の試みとして、厚生労働大臣公認手話通訳技能認定試験（以下『手話通訳士試験』）「実技試験」突破を目指す方を対象に、3日間の夏期集中講座『みんなくで手話通訳士

を目指そう！』を開講しました。初日は課題収録と課題内容の解説を行い、残る2日間は、最大5人程度の少人数グループに分かれて、複数の手話通訳者・士養成機関の教員、手話指

導の専門家からの評価を受ける検証授業を実施します。

対象は手話通訳士「実技試験」合格を目指している聴者の方。現に手話通訳として活動中の方で、手話習得段階の学習者の方は除きます。また、手話通訳養成校2年目以降の在籍

者・卒業生も対象となります。期限までにお申し込みいただいた方たちの属性等を確認させていただいたうえで参加者を決定する方法をとります。

2018年度も8月11日から13日までの3日間、実施予定です。

『みんなくで手話通訳技術を磨こう！』（2017）

今年度は、手話通訳技術ブラッシュアップを目指す『みんなくで手話通訳技術を磨こう！』を開講してみました。聞き取り通訳・読み取り通訳、それぞれ特化した講座を4回ずつ計8回（各回2時間）提供。昼・夜2クラス（同一内容）を設け、昼はみんなくで、夜は交通の便のよい都心（梅田/大阪）で実施しました。

現に手話通訳として現場で活動中の聴者の方を対象とし、手話習得中の学習者の方・これ

から手話通訳を目指そうという段階の方は対象としませんでした。この講座はトライアル的な実施であったこともあり、今年度は聞き取り・読み取りとも外部講師は依頼せず、全クラス、私が講師を担当させていただきました。

2018年度（以降）については研修事業本体に定期的な技術研修として組み込む予定で、研修員以外のかたの参加については検討中です。

『楽しい言語学を学ぶ会（たのげん）』（2015・2016・2017）

言語学に関する知識を身につけ、言語学が言語の何をどのように考えるのかを知るための言語学の基礎講座です。みんなく所属の言語学者吉岡乾先生が、実例を交えつつ、「言語学とは何か」「音のつくり」「語のつくり」「文のつくり」「言語で伝えるもの」「いろいろな言語学」という切り口での6講座、各回（休憩を含めて）約3時間をかけて、丁寧に解説してくださいました。こちらも「手話通訳者のた

めの」と銘打っていますが、音声言語を素材とする言語学講座ということもあり、手話・手話通訳関係者のみならず、音声言語の研究者や学生のかたにも人気の講座でした。講師は音声日本語でお話しされ、日本語・日本手話通訳を付与しました。

吉岡先生には部門設立以前より3年間ご協力いただきました。2018年度については一度休講とし、その後については検討中です。

講座における手話通訳体制

日本語・日本手話通訳を付与する講座の手話通訳は、時期や内容に応じて、二つの通訳OJTの場として活用しています。

1) SiLLR 学術手話通訳研修事業研修員（聴者）の通訳 OJT

研修員と本研修事業修了者（先行プロジェクト時代からの継続受講・修了者を含む）で学術手話通訳者として活動しているOB・OGの組み合わせ、必要に応じて飯泉自身もメンターとして加わって通訳チームを編成。終了後



にフィードバックを実施。
 2) NPO 法人手話教師センターの実施している
 通訳 OJT プログラムを活用し、ろう通訳・フ
 ィーダーを付与。こちらの NPO 法人手話教師
 センターとの協働は昨年度から始めています。
 実は今年度は私も手話教師センター主催のフ
 ィーダー養成講座を受講しました。ろう通訳・

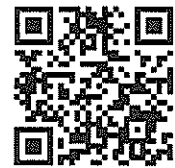
フィーダー派遣を依頼する…時に評価もさせ
 てもらふことになるかもしれない立場の者とし
 て、ろう通訳・フィーダーについて最低限の
 知識・体験を持っているべきだと思ったから
 です。受講は非常に刺激的な体験でした。が、
 それは、また別のお話…ですね。

関連講座開講の目的と今後の展開・・・・・・・・・・・・・・・・

関連講座を開講する目的は、研究成果や所
 属教員の指導技術を一般に広く提供すること
 で SiLLR の存在や活動内容を多くの方に知っ
 ていただく、そして「言語通訳としての手話通
 訳」のあり方を共に考えていただくというこ
 とにあります。また、現役手話通訳の方々・通
 訳を目指している方々に、我々の展開してい
 る研修事業に参画する意欲をもっていただき
 きっかけ作りの場という側面も持っています。

2018 年度については、その両面について再検
 討し、(以上で説明したように) 開講様態を変
 更する講座や休講とするものがある一方、新
 たな講座をスタートさせる予定もあります。
 関心をお持ちいただけましたら、HP や
 facebook の『学術手話通訳研修事業』一みんぱ
 く手話部門一(下記)をご確認いただければと
 思います。

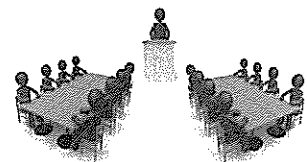
<https://www.facebook.com/MinpakuASLI1621/>



お知らせ



**ブラッシュアップ講座
 (手話通訳士になりたての皆さん)**



対 象：手話通訳士となって3年以内の会員（第27・28・29回試験合格の会員）
 日 時：5月27日（日）10：00～16：00
 会 場：岡山県総合福祉・ボランティア・NPO 会館（きらめきプラザ）4階
 岡山県聴覚障害者センター研修室（岡山市北区南方2-13-1:JR岡山駅徒歩15分）
 内 容：「手話通訳の倫理・あり方」（講義とグループワーク、実技研修を行います）
 講 師：小椋英子会長、鈴木唯美副会長

詳細は同封のチラシをご覧ください